

いつも見る風景

虎ノ門駅で降りて、階段を上がり、駐輪場を抜けて江戸城外堀跡を通り、さざれ石を横目にエスカレーターを上がる。そこから視線を左に向けると、旧文部省の庁舎と新庁舎の間、空と手前にもみじが見える。春も夏もそして秋も同じ景色を見て職場に出勤する。そこが私にとっての1日の仕事の始まりを感じる場所であり、気持ちを切り替えられる場所だ。

今年度地方から文部科学省に配属となり、4月1日の初日。出勤したときは全く気もそぞろで正面ゲートをくぐるだけでその日の全集中を使い果たしていたが、3か月も経てば、少し周りを見る余裕が出てくる。同じ景色を毎日見ていると、少しづつ変化が見えてくる。雲一つない晴れの日やどんよりと重い雲が横たわる日、焼けるように暑い日や息を吐くと白くなるほど寒い日、それぞれに表情があって、時間の移ろいを感じられる。

地元で働いているときも、同じような場所があった。家から職場までの距離が近く、自転車で通勤していたのだが、仕事を終えて、夕方家に帰る途中、自転車で交差点を渡った後、片側4車線の広い幹線道路の先、高架の上に真っ赤な夕焼けが輝いている。その風景を見る度に、今日も色々あったが1日頑張ったという気持ちになる。仕事で壁にぶつかった日も、一つの事業をやっとやり遂げられた日も、全てそこで区切りを付けてくれる。

東京にいるときも地元にいるときも、同じように気持ちの切り替えられる場所がある。東京は目まぐるしく動いている場所で、気を抜いているとどんどん流れに飲み込まれていってしまう。朝の通勤ラッシュでも人の波にのまれ、職場でも仕事の波にのまれて、気持ちが浮足立ってしまう。そんな時に、どこか自分だけの心を仕切り直すことができる場所があるといい。

文科省に来て、もう少しで10ヶ月が過ぎようとしている。長いようで短く、あっという間に過ぎていった10ヶ月だったが、私の人生にとって本当に重要な1年となった。同じ境遇の地方からの研修生と一緒に仕事をし、仲間になり、仕事が終わったら酒を飲んで楽しく過ごす。この年齢になって、一生の仲間ができるなんて思いもよらなかった。また、奇しくも東京に来たのと同じタイミングで結婚し、妻と一緒に新生活を東京で始めることになったが、妻を含めて本当にたくさんの人々に支えられていることを実感する。

残りの派遣期間、やり残すことのないよう存分に楽しもうと思う。そしてまた、いつも見る風景を前に仕事を始める。

(K.M)

「教育委員会月報 令和7年1月号 No.903」

- ・発行・著作 文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課
- ・〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2
- ・TEL: 03-5253-4111 (代表)
- ・URL: <https://www.mext.go.jp>



文部科学省